

Close up

「出会いから考える持続可能な地域づくり」

共生社会学科 石坂誠

コロナ禍での国際交流活動、地域貢献活動
教職課程、それぞれの進路

新任教員・学生寮寮監からのごあいさつ
北嶋藤郷名誉教授著書のご紹介
授業紹介⑩「哲学」井西弘樹



街中に出張しての収録



MC、収録、編集、すべて学生が行います



大学内にスタジオを完備、この回は山田学長がゲスト

アクティブラーニング紹介⑳ コミュニティFMでの番組制作

「敬和キャンパスレポ」は、敬和学園大学の学生が、大学に関わるイベントや人、新発田市・聖籠町のことをテーマに、地元ラジオ局エフエムしばたからお届けするラジオ番組です。

学生たちは、地元に密着したテーマを探し、事前に取材先の情報を集め台本をつくります。台本を元にゲストからお話を伺い、編集で内容を整え、放送にのせます。毎週放送なので大変ですが、番組の感想などを通じてやりがいを感じられる活動です。

番組情報

「敬和キャンパスレポ」
エフエムしばた (76.9MHz)
毎週金曜 (21:30~22:00)

誌面案内 Magazine Guide

| | |
|--|----|
| Close up | 1 |
| 「出会いから考える持続可能な地域づくり」 共生社会学科 石坂誠 | |
| コロナ禍での国際交流活動、地域貢献活動..... | 4 |
| KAKEHASHIプロジェクト 佐渡市宿根木集落活性化プロジェクト | |
| 教職課程、それぞれの進路..... | 6 |
| 公務員に3名合格しました! | 8 |
| バドミントン部創部14年目の活躍 | 8 |
| 新任教員・学生寮寮監からのごあいさつ..... | 9 |
| 江口和美、大岩彩子、辻元秀夫、菊地恵美香 | |
| 北嶋藤郷名誉教授著書のご紹介 | 10 |
| 授業紹介⑳「哲学」井西弘樹 | 11 |
| 同窓会リレー・エッセイ㉔..... | 12 |
| 「姉弟で協力し、家業の麩の製造・販売をしています」 宮村良 (2016年度卒業)、宮村小百合 (2014年度卒業) | |

〈表紙写真〉

ハワード大学とつながったパソコンを持ち歩き、
キャンパスを案内する学生たち (p.4)

出合いから考える持続可能な地域づくり

共生社会学科
石坂誠

域の中で自給することで、持続可能な地域づくりを行うという考え方です。

●ゼミでのフィールドワーク ・F（食料・農業）

①阿賀野市で有機農業を行っている夢の谷ファームの稲刈りに参加し、食料の自給や生物多様性にも寄与する有機農業を体感しました。

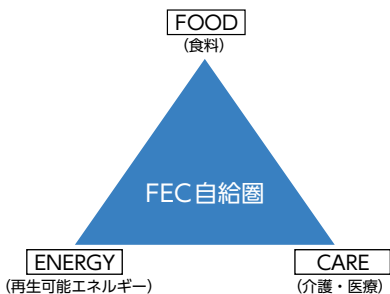
②阿賀町で発生した環境破壊を起因とする新潟水俣病について、冥土連（患者会）の旗野さんからお話をお聞きしました。公害による環境破壊の実態から、環境保全の大切さと経済優先がもたらす弊害について学びました。



●貧困・社会的排除から地域づくりへ

私はもともと貧困問題を中心に、実践、研究活動を行ってきました。職種としては医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、組織としてはワーカーズコープ（労働者協同組合）や市民が立ち上げた社会福祉法人や医療機関（医療生活協同組合）などで働いてきました。

学生時代は、貧困研究のゼミに所属し、九州の筑豊地帯や秋田まで出向き、生活困窮者の調査活動を行いました。サークルは学生セツルメントに所属していました。毎週土日に名古屋市のA地域に入り、子どもたちやその親たちと触れ合う中で、子育てや地域づくり、ひいては政治・経済について語り合いました。現在の私のテーマである「貧困や地域づくり」は、学生時代のフィールドワークが育んだと言っても過言ではありません。



内橋克人氏によるFEC概念図

今、国の目指す地域共生社会や生活困窮者自立支援制度では、排除しない地域づくりが言われています。社会福祉においても時代の焦点は「地域」です。私は学生時代の経験などから、地域に向いて、さまざまな人たちと出会うことの重要性が身に染みんでいます。そこで視点としてFECを基軸に置き、地域づくり熱心な市民の人たちと学生たちとのたぐさんの「出合い」をコーディネートするのが教員の役割であるという考えのもと、ゼミでは積極的にフィールド型アクティブラーニングを行ってきました。

FECとは、二〇二一年に亡くなった経済評論家の内橋克人氏が提唱したもので、F（フード）＝食料・農業、E（エネルギー）＝再生可能エネルギー、C（ケア）＝福祉・介護・まちづくりなどを地



夢の谷ファーム（阿賀野市）での稲刈り

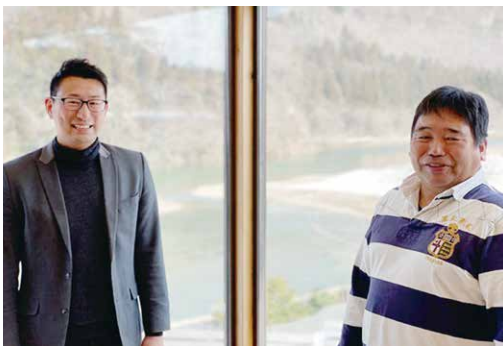


・E (再生可能エネルギー)

③ 一般社団法人おらって市民エネルギー協議会代表の佐々木寛先生から「エネルギー―民主主義―」についての講演をお聞きし、今後の地球環境保護や再生可能エネルギーの可能性、そしてエネルギーの問題が地域づくりはもちろん、民主主義や平和の問題につながるものであることを理解しました。

・C (福祉・介護・まちづくり)

④ 新潟市東区にある「こども創作活動館」で行われているお昼ご飯食堂や学習支援ボランティアの活動などを月一回程度行ってきました。また、新潟市秋葉区にある新津福音キリスト教会で月一回行われている「こども食堂秋葉かけ橋」にも、一二月からの学生ボランティア受け入れ再開に合わせ、参加しています。



阿賀まちづくり株式会社の高橋さん(左)と堀口さん



阿賀町地域おこし協力隊の猪さんへのインタビュー

⑤ 阿賀町の奥阿賀コンビリーでは、高齢者が鬼ぐるみを拾い、障害者施設で穀割、実を取り出し、パティシエが加工・商品化するという循環を実践しています。地域で人の思いと物とが循環し、共生していく姿を学びました。また、新たに立ち上がった阿賀まちづくり株式会社の方から中山間地の地域づくりについての構想をお聞きしたり、コンビリーや阿賀町地域おこし協力隊の方などへのインタビューから、過疎化の進んだ阿賀町での地域づくりの在り方を学びました。

⑥ フードバンクむらかみは、二〇二〇年度に誕生したばかりですが、中山間地でも生活困難は深刻で、利用者が増えています。二年生を中心に、倉庫整理や食材配布といった活動に参加しました。



フードバンクむらかみ(村上市)での食品仕分け

● 居場所という小さな「コミュニティづくり

FECの視点で地域に出向く中で、さまざまな居場所を作っているすてきな人たちに会いました。前述のように、今、国が掲げる大きな目標が地域共生社会です。そこで言われているのが①断らない相談支援、②参加支援、③地域づくりです。①はソーシャルワークの役割となりませんが、②③はソーシャルビジネスが担える部分でもあると考えます。いわば、ソーシャルワークとソーシャルビジネスのハイブリッドが地域共生社会ではないかと私は考えます。②と③関連では、事業を通して地域づくりを行っていく小さなコミュニティともいえる「居場所」が各地で創られています。

特にすばらしい出会いが三つあります。これらの居場所・コミュニティとは



奥阿賀コンビリーで働く寺沢慈さん

今後、本格的に関わっていく予定です。
一つは岩室温泉にある岩室とも家です。とも家は、オンライン授業のみで大学に行くことができない新潟在住の東京の大学生が、「遠方にくれて」立ち上げました。ゲストハウス、コワーキングスペースなどを基盤に地域づくりを行っていく拠点となっています。

二つ目は、村上市のふくちやcafeです。管理栄養士と保健師・公認心理師が創った小さなカフェです。カフェを拠点に発達に特性のある子どもたちや心身の健康をテーマに誰でも安心して過ごせる第三の居場所を目指しています。

三つ目は田上町の里山ハーモニーです。特別支援学校などでの勤務経験もあるご夫婦が立ち上げた、カフェ、レンタルスペース、季節の手仕事体験、里山暮



里山ハーモニー「奏食堂」で働く吉田透慧さん

らし、自然に寄り添う生活・山体験などを行うコミュニティです。

●地域で活躍する卒業生との出会い
地域に向く中で、仕事と地域づくりに尽力する卒業生とも出会いました。
奥阿賀コンビリーでは、寺沢慈さん（二〇二〇年度英語文化コミュニケーション（シオン学科卒業）が、パン作りの責任者として奮闘しています。すでにコンビリーに於いてはならない存在です。

吉田透慧さん（二〇一七年度共生社会科学卒業）は、里山ハーモニー「奏食堂」にて、クリスマスに世界の料理を振る舞うなどシエフとして腕を奮っています。

敬和から巣立った種たちが、地域に根づき、開花し始めています。学生そして何よりもゼミ生たちです。

Profile

石坂誠 准教授
プロフィール

●最終学歴

日本福祉大学大学院
社会福祉学専攻修士課程 修了
(社会福祉学修士)

●研究テーマ

貧困・社会的排除、ソーシャルワークと協同の形成、非営利・協同

●こんな授業をしています

地域に山積する生活問題について学ぶと共に、そうした問題の解決・緩和について、ソーシャルワークと非営利・協同の視点から考えます。

時代にどれだけ「手本」となる大人や同世代と出会うかが、卒業後の人生に大きな影響を与えていると思います。

ゼミの学生一人ひとりが、講義や本で学んだことをフィールドワークで体感することで血肉化し、成長する、そんな過程を実感できる一年間でした。



石坂先生（左下）とゼミ生たち

新型コロナウイルス感染症拡大により、国際社会、国、自治体、私たちの身の回りのすべての物事への対応の変化が求められるようになって二年が過ぎました。大学教育の場においては、何よりも学生および教職員、関連する皆さまの安全を第一にして、目指すべき教育をいかに維持・拡充していくかが大きな課題となっています。このような中で、関係する皆さまのご尽力により、いくつかの活動に新しい光が見えてきました。

コロナ禍にあっても、本学の教育の根幹であるミッション・ステートメントに立ち戻って活動方針を定めてきました。

まず、授業の実施においてはミッション・ステートメントにある「対話とコミュニケーション」を重視し、施設設備面と運用ルールから感染拡大防止の対策を取ること、この二年間のうち全面オンラインの期間を二か月強にとどめ、対面での授業を中心に実施してきました。教室は一席ずつ空けて利用し、収容定員の半分を超える授業は、複数の教室をオンラインでつなぐなどの工夫をしました。

また、コロナ禍で大きく影響を受けたものが、「グローバルな視点で考える」国際交流活動と「隣人に仕える」地域貢献活動です。これらの活動も創意工夫の積み重ねで実態のある活動として取り組めるようになってきています。

国際交流活動については、いまだ直接

外務省「日本・アメリカ交流プログラム」に参加

KAKEHASHIプロジェクトでの異文化の交流

今年度、敬和学園大学は外務省プログラムの一つであるKAKEHASHI Inouye Programに参加しています。アメリカ上院仮議長を勤めた故ダニエル・イノウエ氏の功績を学ぶ日米大学の交換留学プログラムで、ワシントンD.C.のハワード大学が参加校として選ばれ、短期留学プログラムでの交流があったことから本学をペア校に選んでくださいました。各大学から二八名の学生が選出され、九月のプレプログラムの後も活発に交流を続けています。今後予定されている交換留学でアメリカの友人たちに実際に会える日が楽しみです。
(英語文化コミュニケーション学科 大岩)



少人数グループでのオンライン・ディスカッション



英語文化コミュニケーション学科三年
本間 未夢

私たち敬和学園大学の二八名は、SNS、大学紹介、日本紹介の三つのチームに分かれ、九月のプレプログラムに向け、夏休みは準備に明け暮れました。

私の所属する日本紹介チームは、「米」をテーマに、日本の歴史、言語、食文化、新潟の四季や観光地、米とSDGsとの関連について発表準備を進めました。調査と英語発表の準備で大変でしたが、次第に調査結果のおもしろさを伝えたい気持ちが高まってきました。ダニエル・イノウエ氏についての講義も受け、プレプログラムの日を迎えました。オンラインでしたが、日米学生間の発表とディスカッションは刺激的で、特にディスカッションでは、日本のポップカルチャーとSDGsをテーマに盛り上がりました。交流の中でリユースボトルの話聞き、日本でのSDGsの取り組みをより意識するようになりました。その後も非公式交流会やSNSでのつながりを続け、学生間の交流も深まり、私自身のコミュニケーション能力も向上しました。

コロナ禍のため、派遣プログラムは延期となりましたが、来年度こそ対面での交流ができることを祈っています。

地域貢献活動

海外に出向くことが現実的でない環境下
にあり、オンライン会議サービスを利用
した交流活動の充実に力を入れていま
す。まず、本学独自の取り組みとして、「デ
ンマークの教育と福祉」の授業を立ち上
げました。デンマーク・ブレネルップ・
ホイスコーレと新たに提携を結び、現地
の講師によるオンライン連続講座の実
施、また環境が整えば、講座を踏まえ
た現地研修を行える体制が整いました。ま
た、後述の外務省による「KAKEHA
SHIPプロジェクト」に参加できたこと
は、本学にとってコロナ禍での大きなギ
フトとなりました。

地域貢献活動は、地域における感染状
況と派遣先の意向を踏まえ、対面とオン
ラインでの実施を進めました。「児童英
語教育」および「国際交流ファシリテー
ター」、「阿賀北ノベルジャム」の活動は、
学生たちと担当教員の努力により、オン
ライン実施のスタイルを確立してきてい
ます。また、今年度は学長裁量費を活用
して、六つの地域貢献活動を推進するこ
とができました。

開学のころより本学を支援してくださ
る「オレンジ会」からは、コロナ禍で困
窮する学生たちの生活を、複数回にわた
る直接的援助で支えていただきました。
敬和学園大学は、引き続きミッション・
ステートメントに基づく教育の提供を教
職員一丸となって継続してまいります。

ベトナムと新発田市、佐渡市をつなぐ地域活動

佐渡市宿根木集落活性化プロジェクトでの地域との交流

文化論演習（ゼミ）にて、昨年度から
佐渡市宿根木集落で地域活動を行って
います。「ゆるやかなコミュニティづくり」
をコンセプトにしたベトナム風路上茶屋
では、学生が店主となり、地域住民や観
光客に佐渡番茶を無償提供しました。ま
た、学生が試作したりサイクル米袋ト
トバッグを、新発田市の障害者就労支援
マザーアースで商品化し、新発田市役所
と宿根木で販売しました。端材に宿根木
の焼印を押ししたオリジナルマグネットも
好評でした。学生は、ベトナムと新発田
市、佐渡市をつなぐ協働活動を通して、
自ら学び、自らの成長につなげています。

（国際文化学科 長坂）



ベトナム風路上茶屋での交流活動



国際文化学科三年
小山 悠斗

昨年度のゼミの先輩から引き継ぎ、佐
渡市宿根木集落にて、佐渡活性化事業の
活動をさせていただきました。

現地での活動に向けて、事前に長坂先
生の専門であるベトナム文化と宿根木集
落について勉強をしました。ベトナム風
の路上茶屋では、低い椅子に座ってもら
うことで気を張らなくてよいゆるやかな
コミュニケーションを創造しました。普段
とは異なる視線で景色を見てもらうこと
や、地域住民と観光客など地域外の方と
の交流を作ることを目的とし、多くの
方々と貴重な時間を過ごすことができました。
茶屋スペースでは、お茶の無料提
供をはじめ、米袋トトバッグや宿根木
マグネットなどの販売を行い、地域の方
に喜んでもらうことができました。

宿根木集落の活動中は、ゼミで自炊生
活をして過ごしました。慣れない環境で
したが、普段の生活では得られない経験
や見ることでできない景色を見れまし
た。また、現地の方々からは、活動をす
る私たちを温かく迎え入れていただき、
交流を深めることができました。今後も
人の役に立ち、喜んでもらえるような活
動を進めていきたいと思っています。

多彩な進路を実現

教職課程、それぞれの進路

敬和学園大学の教職課程では、小学校二種、中学校・高等学校一種の教員免許を取得できます。また、上越教育大学大学院との連携・協力協定を結ぶなど、大学院進学をサポートもしています。

二〇二一年度卒業生では、一〇名が教員免許を取得しました。また、その進路は多彩で、幼稚園英語教員一名、小学校教員一名、中学校教員三名、高校教員一名、大学院進学一名、金融機関一名、一般企業二名となっています。

リベラルアーツによる幅広い教養と確かな価値観に加え、少人数による教職課程での実践的な学びで成長した卒業生たちが、世の光として社会を照らしてくれることを期待しています。



教職課程反省会にて仲間たちと

教育により幸せを与えていきたい



英語文化コミュニケーション学科四年

鈴木 達也

今春から新潟県公立中学校の英語教員になることが決まりました。私は、大学四年間でさまざまな体験をしました。その一つひとつが教員採用につながる大切なことでした。

私は一年生の春休みにニュージーランドに短期留学をしました。初めは英語を話すことがそれほど得意ではなかったのですが、日本語が通じない環境で生活することが不安でした。しかし、閉じこもらずに出会った人と積極的にコミュニケーションを取るうと努力しました。帰国するまでに、語学学校の先生や仲間、ホストファミリーと心が通じ合えたという実感を得ました。

実習では、児童養護施設や特別支援学校を訪れました。さまざまな事情がある子どもたちと接し、施設の方々の子どもたちに対する深い愛情や温かさに触れることで、教育によって子どもたちが幸せに暮らしていけるようにしたいという気持ちが高まりました。

英語の先生になるという夢は、私一人の力ではなく、周りの方の支えで叶えられました。今まで大事に育ててくれた家族をはじめ、応援してくれたすべての人に感謝し、立派な教員となって恩返ししたいと思います。

自分の考えを持てた四年間



英語文化コミュニケーション学科四年

渡邊 真代

私は、新潟県内の私立高等学校の採用試験を受験し、内定をいただきました。採用試験は、筆記試験が一回、面接が二回ありました。筆記試験は、国語・数学・英語の三教科から出題されました。一次面接では学生時代に学んだことを中心に、二次試験では教職に対する思いを中心に聞かれました。

私が内定をいただけたのは、知識だけではない教職課程の学びをしてきたからだと思います。私はこの四年間で、物事の一つひとつを深く考える習慣を身につけることができました。就職活動を行う中で、「なぜ教師になりたいのか」、「なぜこの学校なのか」など、私自身や勤務を希望する学校について研究しなければなりません。「なぜ」という疑問を見逃さず、しっかりと向き合うことによって、私自身の考えを持つことができ、それを面接官の方にも評価していただけたのだと思います。

高校生は、進路を決定する大切な時期にいます。四年間の教職課程の学びや就職活動で明確になった私の強みや弱みなどをうまく生かし、教師として、生徒一人ひとりのやりたいことや持っている個性を尊重した指導・支援を行っていきます。

敬和学園大学教職課程

三つのポイント

教員として必要な知識を身につけるだけでなく、インターンシップや教育体験活動、教育実習を通じて、教える技術を実践的に学びます

Point1 小・中・高校の教員免許が取得できます

〈取得可能な教員免許状〉

- ・小学校教諭二種免許状（＊）
- ・中学校教諭一種免許状（英語）
- ・中学校教諭一種免許状（社会）
- ・高等学校教諭一種免許状（英語）
- ・高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
- ・高等学校教諭一種免許状（公民）

＊玉川大学通信教育部と併修

Point2 「教室での教え方」を実践的に学びます

四年次に三週間の教育実習を行います。また、希望者は三年次からインターンシップとして毎週一回、教育の現場を体験できます。

Point3 多くの卒業生が教壇に立っています

新潟県内をはじめとする小学校・中学校・高等学校で、一・二九名の卒業生が教員として採用され、教壇に立っています。

教育者として働ける幸せ



英語文化コミュニケーション学科四年
山口 英莉華

私は幼稚園から内定をいただき、春から英語教諭として働きます。実のところ、元々この道を目指していたわけではなく、幼稚園で働くというのは私にとって想定外でした。

私は教職課程を履修し、中学校教諭を目指していましたが、現役で教員採用試験に合格することができませんでした。教育実習を控えたタイミングでもあり、敬和学園大学に進むか、次の採用試験を目指しつつ非常勤講師として働くか、塾講師を続けるか、何が最善の進路か分からず余裕のない迷いの中にいました。そんな時、端なくも舞い込んできた幼稚園英語教諭の求人票を見て、「これしかない」と半ば勢いで応募し、晴れて内定をいただくことができました。私の進路は、このように偶然とタイミングが重なって決まりました。

中学校のころから教職の道を目指してきた私にとって、教育者として働けることほどに幸せなことはありません。児童英語教育プログラムや塾講師、インターンシップで得た子どもたちとの関わりや経験を胸に、幼稚園という教育現場で新たな意見と経験を培い、教育者として、社会人として、またいち学習者として学び続けたいです。

自分自身の経験を教材として



英語文化コミュニケーション学科四年
豊田 颯

大学院への進学を考え始めた時期は三年の後期でした。大きなきっかけは、敬和学園大学での学びの中で自身の障害観が変容したことです。

私は発達障害者です。今となっては自己開示できますが、差別されることを恐れて昨年までは周囲にひた隠しにしてみました。自身の障害と向き合うことを避けていたのです。しかし、教職課程でさまざまな価値観を持つ友人たちと共に学び合う中で、心の重荷を下ろし、「少しずつ自分の障害と向き合いたい」と思うようになりました。その後は教職課程の友人に、また教育実習で生徒に、私が発達障害であることを自己開示することで障害について共に考える機会をつくるなど、私の経験を一つの教材として用いました。

近年、障害のある子どもへの支援の輪が広がってきていますが、いじめの認知件数の増加など、依然課題は残っています。それらの課題に取り組み、探究するために敬和学園大学に進学します。今後は当事者の視点に立って、さらに多くの子どもや保護者、教師が「教育っていいな」と思えるように、これらの課題に献身的に取り組んでいきたいです。

就業体験、筆記試験・二次選考対策など充実した指導

公務員に三名合格しました！

今年度の各種公務員試験に本学学生三名が合格しました。

本学では、公務員採用のための就業体験として、市役所などでのインターンシッププログラムを用意すると共に、「地域経営プログラム」の履修や自治体主催イベントへの参加を呼びかけています。また、筆記試験対策として、授業科目「SPI対策」開講のほか、年間を通じた専任教員主導の勉強会、長期休暇中の集中講座、予備校と連携した模擬試験を行っています。そして、二次選考対策として、集団討論、各種面接、小論文の練習を集中的に行っています。
(就職委員会)



公務員試験対策勉強会でのマンツーマン指導



国際文化学科四年

屋仲 幹太

私は、今春より燕市役所での勤務が決まりました。採用試験に向けて、「SPI対策」の講義や年間を通しての「勉強会」参加、筆記試験の勉強を日々積み重ねたほか、二次選考の面接対策として、キャリアサポート課や先輩方と何度も練習をさせていただきました。

コロナ禍にあつて、最終選考以外の筆記試験、面接試験がオンラインに変更されたり、いくつかの民間企業の選考も並行して行っていたため、精神的にも身体的にも疲弊する日々でした。しかし、両親をはじめ、勉強会関係者やキャリアサポート課など教職員の皆さま、先輩方など多くの方の力を借り、内定を得ることができました。支えてくださった多くの方々、ありがとうございます。

今後の目標は、より多くの人に貢献し、より多くの人から信頼されるような市役所職員になることです。そのため日々感謝と初心を忘れずに努力を続けていきたいと考えています。また、学生生活やアクティブラーニング演習で培った経験を生かし、市民の皆さま一人ひとりに寄り添えるよう心掛けて職務にあたりたいと思います。

コロナ禍を乗り越えて

バドミントン部創部一四年目の活躍

敬和学園大学バドミントン部は、全日本選手権一〇連覇、オリンピック五位入賞の松浦進二監督と、OBであり、全日本選手権でも活躍した藤原達矢コーチによる熱意溢れる指導により、多くの大会での実績と基本を徹底した選手育成の信頼を積み重ね、部としての成長を続けています。

コロナ禍によりいくつかの大会が中止となりましたが、選手それぞれが目標を見失わずに練習を続け、今年度の全日本総合選手権の本選に四名が進出しました。新人選手の活躍も目覚ましく、北信越学生新人選ではすべての種目で優勝、六冠を達成しました。応援ありがとうございます。



皆さまからの応援が力になっています

新任教員からのこあいさつ

知る、考えるを積み重ねる



英語文化コミュニケーション学科
江口 和美

昨年八月に着任しました。新潟のみならず日本海側での生活は初めてです。敬和学園大学だけでなく、新潟という点でも学生の皆さんの方が先輩です。分からないことばかりですので、いろいろと教えてください。

昨年のタイヤ交換時に担当者から冬準備として「フード付きの防寒着も必要」と言われました。理由が分からず問うと、雪かきする時も雪は降り続けているからとの回答でした。言われれば納得ですが、今まで雪の経験がないので「雪が積もっている↓雪かき」のイメージで、その作業段階で雪が降っていることは全く思いつかなかったのです。人は案外知らないことばかりです。でも、知識を増やし適切にイメージできれば対策もとれますから、困ることが減ります。

大学での学びは冬対策などと違い、すぐに成果や効果が見えるものばかりではありません。しかし、大学で得た知識や経験は皆さんの将来から困ることを減らし、心健やかに生きるための大きな武器になると考えています。皆さんと一緒に一つひとつ知る、考えるを大切に積み重ねていきたいと思います。

置かれた場所で咲くために



英語文化コミュニケーション学科
大岩 彩子

二〇〇八年後期より契約講師として敬和学園大学で英語科目を担当し、二〇一一年度末に一度カレッジレポートに退職のこあいさつを書きました。その時は、敬和学園でBrother's keeperという意味がよく分かった、関わる人たちを兄弟姉妹のように大切に、同じ思いである教員に支えられ、敬和学園を家族のように感じると書きました。それから一〇年もの月日がたち、非常勤講師、二期目の契約講師、特任講師の期間を経て、今年度より准教授として着任しました。いつも敬和学園の皆さんが私に「次の場所」を与えてくださいます。この一〇年で私は結婚し子どもを産み育てながらも、いつも私が私らしくいてもよい場所、教員として成長できる場所、私が「置かれた場所で咲ける」その場所を与えていただきました。

学生の皆さんも敬和学園大学のキャンパスで自分の場所を見だし、成長し、自分らしく咲けるようにお手伝いできたら光栄です。いつか咲く花を思い種をまき、その根も強く成長できるように希望の教育の場所を作れるよう、これから努めます。

学生と寮生からのこあいさつ



辻元 秀夫

私は学生時代を学生寮で過ごしました。大学学生寮の最大の魅力は、異なる価値観を持つ人々と自治や行事などの共同作業を経験できることです。このような経験はおそらく学生寮以外では得られない貴重なものです。また、あらゆる問題を話し合って解決するスキルを身につけ、切磋琢磨の中で自己を確立し、生涯の友と出会う場所でもあります。分断や孤立に悩む現代社会において、意義ある教育の場に再び参画できることに感謝しています。

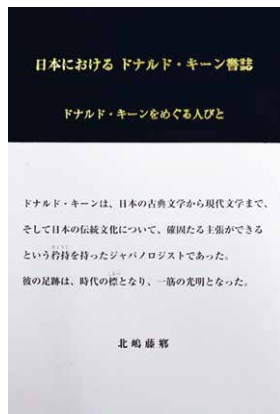


菊地 恵美香

牧師になるために学んだ神学校の時を学生寮で過ごしました。今でもその仲間との関係は、人生を豊かにし、支えてくれる宝物。学生たちがそんな宝物と出会うお手伝いをしていきたいです。寮生活では問題に直面し、傷つき悩むこともあるでしょう。だからこそ、気づき、深まることがある。そして、笑うことも。そんな日常と一緒に積み重ねることで、人と人との絆は強くされる。「三つよりの糸は切れにくい」(コヘレトの言葉四二二)のです。

新潟出版文化賞大賞を受賞

北嶋藤郷名誉教授著書のご紹介



敬和学園大学の北嶋藤郷名誉教授著『日本におけるドナルド・キーン書誌／ドナルド・キーンをめぐる人びと』が、第十二回新潟出版文化賞大賞を受賞されました。

本書は、日本文学研究家で本学名誉文化博士ドナルド・キーン氏に関わるおおよそすべての書誌情報を網羅しているだけでなく、キーン氏と交流のあった著名な文学者らについてのキーン氏自身の論評や見方を紹介しており、楽しく読めます。例えば、キーン氏が「天才と呼ぶにふさわしいただ一人の人物」と評する三島由紀夫については、自決の三か月前に高級料亭で伊勢海老を三人で七人前食べ、招かれたキーン氏は「何かおかしい」と思ったと紹介しています。キーン氏の和名の当て字「鬼怒嶋門」もどうやら三島との手紙のやり取りから生まれたようです。本書は、選考委員長の芥川賞作家・藤

沢周氏より、「新潟とブルックリンがつながる。若き米国青年と平安時代。そこに情熱の橋がかかり、古浄瑠璃と世界文学が結ばれた。その向こうには三十一歳の日本の希望を信じた言葉の虹が光っている――。(中略)『本書』を読んで、深淵な時空を旅すると共に、その人の体温や息遣いを間近で感じるような喜びを覚えた。一体、書誌においてこのような血の通ったものが、今まで存在したであろうか。」と絶賛されました。

北嶋先生、おめでとうございます。本書は考古堂書店、ジュンク堂書店新潟店で購入できます。

(英語文化コミュニケーション学科 金山)



新潟出版文化賞表彰式での北嶋先生

次号は、「女性史青山なを賞」受賞の桑原ヒサ子名誉教授著『ナチス機関誌「女性展望」を読む』を紹介予定です。

一般寄付者ご芳名

(二〇二二年一月三二日現在、敬称略)

〈一般〉

千葉眞、藤井研一、後藤まり子、池田五三雄、風間まり子、小池正春、松井和榮、松井純雄、松澤郁子、宮下要一郎、菲澤紀子、岡田征六、大作壽、小柳清、佐伯ヒサエ、坂井智、笹川寛、笹川勝夫、澁谷博、鈴木史江、鈴木精一郎、田畑慶子、刀禰堯介、外崎孝、和田信市、山下佳弘、安田光一、電気通信普及財団、日本基督教団東中通教会、日本基督教団東中通教会婦人会、日本基督教団京都丸太町教会シオン会、日本基督教団見附教会、日本文化人類学会、新潟居留地研究会、日本基督教団新潟教会婦人会、新潟YWCA、日本基督教団新津教会、日本基督教団三条教会、新発田朝教会守弘士朗、日本同盟基督教団新発田キリスト教会、日本基督教団新発田教会、富塚・のぞみの里渡辺美穂

授業紹介② 「哲学」 担当：井西弘樹

「当たり前」を吟味し、新しい見方を獲得する学び

この講義では、哲学や倫理学の基本的な考え方を学びます。前期は、さまざまな哲学者の考えから哲学的な発想について解説します。後期は、安楽死や環境問題など、私たちに身近な問題を題材にして倫理学の考え方を学びます。授業では、私たちの「当たり前」を徹底的に吟味します。例えば、部屋の中の机は、私が見ていない時にも存在しているのか。けが人を見た時に感じる「他者の痛み」は、本当に存在しているのか。私が見ていない時の机も、他者の痛みも、実は本当にあるのか分からないものです。それにもかかわらず、それらがあるという「思い込み」なしに、日常生活は送れません。このように、世界についての新しい見方を獲得することが授業の目的です。



新しい視点から、「当たり前」の日常を考えます



国際文化学科 年
宮島 芙夕弥
ふゆね

皆さん、「哲学」と聞いて何を思い浮かべますか。私が一年間を通して学んだ哲学とは、普段当たり前と思っていることに疑問を抱き、スタート地点からあらためて考えることでした。

前期は、「よく生きること」、「正義」、「神の存在証明」などについて学びました。人によって何が正義であるかの基準はバラバラであり、今に至るまで歴代の哲学者たちの論争の的となってきました。そういった答えのない問題を考えていくことは、私自身の正義理解を考え直すよいきっかけになりました。

そして後期は、私たちに最も関係がある「命」について、「生命倫理」「動物倫理」「環境倫理」の観点から学びました。命の選別や差別、環境の問題は世界各国で取り上げられています。リアルタイムで起こっていることと哲学とが絡んでいくことを知り、さらに学びの範囲が広がりました。

この授業を通して、多くの知識と、物事をよく考えることの重要性を学びました。この学びは、私が人生を歩む上で大きな役割を担っていくと思います。

〈卒業生・在学生・保護者〉

新田和子(一)、和唐幸江(二)、
山田千寿子(三)、川村雅子(四)、
中野貴之(四)、桑原裕美(五)、
櫻井淳(六)、野口さや香(八)、
後藤伸介(一〇)、山本恵嗣(一一)、
金海順(一四)、垣内駿(一九)、
野口美紀(二〇)、佐藤雅輝(二二)、
門野剛(二五)、田口明美(二六)、
廣田義人(二七)

〈学園関係〉

姜杰裕、片岡玉子、高加茂早苗、
田邊昌邦、横山由美子、吉澤昭男、
後援会(一〇)、オレンジ会

(一)内、漢数字は期生、算用数字は回数

皆さまからのご寄付は、学生生活の
充実に活用させていただきます。

〈郵便振替口座〉

〇〇六三〇・九・一九八九六

敬和学園大学



姉弟で協力し、家業の麩の製造・販売をしています

私たちが姉弟は、明治三十五年創業以来、新潟県新発田市で麩の製造をしている宮村製麩所という家業を継ぎ、弟は製造の職人として、姉は販路拡大のために関東でECサイトを運営しています。この場をお借りして、二人の近況をお伝えしたいと思います。



二〇一六年度卒業
宮村 良

私は大学卒業後すぐに入社し五年が経ちました。職人の仕事である麩の製造は日々覚えることだらけですが、四代目となる父から学び、努力を続けています。

製造のほかに、イベントで販売することもありますが、その時に役立つているのが、大学での「国際インストラクター」の経験です。この活動は、小・中・高校生にゲームなどを織り交せて異文化を分かりやすく伝えるものです。麩の販売において、弊社の麩のよさをどのようにしたらお客さまに伝えられるかを考える際にすごく役立っています。私は高校生まで初対面の人と話すことが苦手でしたが、大学生活を通じて人見知りを克服できました。社会人になり、さまざまな会社の方やお客さまと関わる中で、大学で培ったコミュニケーション力と広い視野が役立つことを実感しています。



宮村製麩所のWebサイトはこちら



二〇一四年度卒業
宮村 小百合

私は大学卒業から一年後に入社しました。現在は主に関東圏の営業とECサイトの運営をしています。インスタグラムやツイッター、フェイスブックなどのSNSも活用し、弊社の主力商品であり、新潟県の名産品である車麩や新発田市の名前がついた新発田麩を、新潟県のみならず全国あるいは世界に広めようと日々奮闘を続けています。

現在、新発田麩は少しずつ全国で販売できるようになり、新発田の名も少しずつ広まっていると感じています。また、一年前に本格的に始めたECサイト運営ですが、今では全国各地から弊社の麩を購入してくださる方が増えています。これからも弊社の麩を通して新潟県や新発田市の魅力を伝えていけたらと思っています。

学事予告

- ◆二月◆
 - ◆ 総合型選抜(二期) 面談日①
 - 一八日 聖籠町キッズカレッジ 英語で遊ぼう!③
 - 二五日 冬期休暇(一月三日まで)
 - 二七日 総合型選抜(二期) 面談日②
- ◆一月◆
 - ◆ 一月 休業(創立記念日振替休日)
 - 四日 講義再開
 - 五日 卒業論文提出締切
 - 五日 大学入学共通テスト(一六日まで)
 - 二二日 後期講義終了
 - 二四日 後期末試験(一九日まで)
 - 三二日 後期集中講義①(二四日まで)
- ◆二月◆
 - ◆ 二月◆
 - ◆ 総合型選抜(三期) 面談日①
 - 六日 学業特待生選抜(学力試験型二期)
 - 一般選抜(A日程)
 - 外国人留学生入学試験(二期)
 - 社会福祉士国家試験
 - 春期休暇(四月一日まで)
 - 七日 後期集中講義②(一日まで)
 - 九日 総合型選抜(三期) 面談日②
 - 一四日 後期末追試験(一六日まで)
 - 一六日 後期集中講義③(一八日まで)
 - 一九日 入学前スクーリング
 - 二二日 一般選抜(B日程)
 - 二八日 再試験(三月一日まで)
 - 図書館蔵書点検(三月四日まで)
 - ◆ 三月◆
 - ◆ 三月◆
 - ◆ 七日 学業特待生選抜(学力試験型二期)
 - 一般選抜(C日程)
 - 一一日 学内合同企業説明会
 - 一六日 総合型選抜(四期) 面談日①②
 - 学校推薦型選抜(二期)
 - 二四日 卒業式
 - 二六日 オープンキャンパス①
 - 三二日 学年終わりの
 - ◆ 四月◆
 - ◆ 一日 学年始め
 - 後援会総会
 - 五日 入学式
 - 六日 プレゼンメントテスト(七日まで)
 - 七日 履修相談日
 - 二二日 履修相談日
 - 二二日 前期講義開始
 - 履修登録期間(一八日まで)
 - 一五日 新入生歓迎公開学術講演会
 - 学費前期納入最終日(二〇四年)
 - 二二日 新入生オリエンテーション
 - ◆ 五月◆
 - ◆ 二二日 高校生向け英検対策集中講座①

キャンパス日誌

6 June

- 2 教授会
- 4 チャペル・アッセンブリ・アワー⑧
説教 菊地恵美香 日本基督教団牧師「羊の群れよ、どこへ行く？」
講話 山藤規子 非常勤講師「キリスト教と音楽 讃美歌の源を探る」
- 8 後援会役員会
- 11 新発田市立東中学校大学見学（3年生 78名）
チャペル・アッセンブリ・アワー⑨
説教 下田尾治郎 宗教部長「反々になってくださる方」
講話 新発田中央地域包括支援センタースタッフ、渡邊美穂 グループホーム富塚・のぞみの里ホーム長「認知症と共に」
- 14 相談援助実習 1（～7月21日）
- 15 秋季編入試験面談①②
- 18 チャペル・アッセンブリ・アワー⑩
説教 田中利光 教授「あなたは大切な存在です」
講話 田邊昌邦 元職員「時と時間を大切に」
- 23 高校教員対象進学説明会（写真①）
新入外国人学生交流会（写真②）
- 24 長岡明徳高校大学見学（2～4年生 11名、教員 3名）
創立記念日
- 25 チャペル・アッセンブリ・アワー⑪
説教 山田耕太 学長「よいサマリヤ人」
講話 土田雅穂 フードバンクしばた事務局長「フードバンクしばたの活動について」
- 30 臨時教授会



7 July

- 2 チャペル・アッセンブリ・アワー⑫
説教 金山愛子 教授「スローでいいこう」
講話 大若彩子 准教授「モンテッソーリ教育から学ぶ、『自立』と『自律』と『平和な世界』」
- 6 敬和学園高校大学見学（1年生 162名）
- 7 教授会
- 新発田江高校通信制大学見学（1～3年生 13名、保護者 2名、教員 3名）
- ボランティア論・学習セミナー
- 9 チャペル・アッセンブリ・アワー⑬
説教 片岡賢蔵 日本基督教団東中通教会伝道師「神と闘い、自分に勝つ」
講話 ボランティア活動報告会「全国健康福祉大会での裏方活動」、「マスクへ行こう」、「マスク作りと書下ろし活動」
- 巻総合高校大学見学（1年生 39名、教員 2名）
- 中条高校大学見学（2年生 2名）
- 10 オープンキャンパス②（113名）
- 16 チャペル・アッセンブリ・アワー⑭
説教 山田耕太 学長「旅人としての人生」
キリスト教音楽受講者によるコーラス KEWA Choir
3年生保護者との就職懇談会（対面 51名、オンライン 10名）
- 20 精華学園高校大学見学（1～3年生 9名、教員 3名）
- 21 新津南高校大学見学（2年生 76名、教員 2名）
- 24 聖籠町キッズカレッジ（英語で遊ぼう!）①（14名）（写真③）
- 27 加茂高校大学見学（1年生 36名、教員 1名）
- 28 新津南高校大学見学（1年生 38名、教員 1名）
- 29 前期講義終了
- 31 前期末試験（～8月6日）



8 August

- 7 夏期休暇（～9月15日）
- オープンキャンパス③（117名）
- 8 前期集中講義期間（～12日）
- 10 教員免許状更新講習（49名）
- 13 追試験（前期卒業対象者向）（～20日）
- 19 再試験（前期卒業対象者向）（～24日）
- 25 前期追試験（～27日）
- 29 オープンキャンパス④（73名）



9 September

- 1 教授会
- 6 開志学園高校大学見学（2年生 64名、教員 3名）
- 8 職員SD研修会
防火訓練（写真④）
- 10 山北中学校大学見学（3年生 33名、教員 3名）

- 14 トライ式高等学院大学見学（1～3年生 18名、教員 2名）
- 15 前期卒業式
- 16 後期入学式
理事会
- 17 履修相談日
- 18 オンライン英検対策講座②（20名）
- 20 後期講義開始（オンライン、～10月3日）
- 履修登録期間（～25日）
- 24 チャペル・アッセンブリ・アワー⑮
説教 山田耕太 学長「リハバルアーツとは何か」
前期エッセイ・コンテスト授賞式
- 29 研究倫理・コンプライアンス研修会

10 October

- 1 チャペル・アッセンブリ・アワー⑯
説教 下田尾治郎 宗教部長「主がお入り用なです」
講話 吉原悠博 吉原写真館店主「エモい シバタ!」
- 3 総合型選抜（1期）面談①
- 6 教授会
- 8 チャペル・アッセンブリ・アワー⑰
説教 菅原只行 敬和学園高校教授「平和とは何か」
講話 Keiwa Peace Project ～祈り、つながり、希望～「平和学習プログラム参加報告」
- 9 中条高校大学見学（1年生 3名、教員 1名）
- 聖籠町キッズカレッジ（英語で遊ぼう!）②（16名）
- 11 履修登録確認期間（～15日）
- 13 避難訓練
- 15 チャペル・アッセンブリ・アワー⑱
説教 山崎ハコネ 准教授「食卓に招かれて」
講話 田中純一 平島公園クラブ会長「子どもたちと地域と共に花と緑の平島公園づくり」
- 17 総合型選抜（1期）面談②
- 18 新発田市オープンカレッジ①
講師 井西弘樹 講師「哲学者は笑いについてどう考えてきたか」（29名）
- 19 東京学園新潟高校大学見学（2年生 77名、教員 4名）
- 20 教授会
- 23 第31回敬老祭（写真⑤）
- 25 新発田市オープンカレッジ②
講師 石坂誠 准教授「人間のケア・地域のケア・地球のケア」（24名）
- 26 関根学園高校大学見学（1年生 39名、教員 1名）
- FD/SD 研修会「学びの質の向上と制度の効率化に向けて」
講師 金山愛子 教授
- 28 栃尾高校大学見学（1年生 26名、教員 1名）
- 29 チャペル・アッセンブリ・アワー⑲
説教 田中利光 教授「宗教改革者が残したものと」
講話 江口和美 准教授「ふりかえり思うこと」
村上桜ヶ丘高校大学見学（1年生 40名、教員 1名）



11 November

- 1 総合型選抜（1期）合格発表
相談援助実習 2（～24日）
- 5 チャペル・アッセンブリ・アワー⑳
説教 益谷真 教授「ことば？出会う」
講話 小林正継 八木重吉の詩を愛好する会事務局「詩人八木重吉と私」
- 6 1・2年生保護者懇談会（58名）
- 8 フィールド・トレーニング 1（～13日）
- 10 教授会
- 11 山北中学校大学見学（2年生 18名、教員 4名）
- 12 チャペル・アッセンブリ・アワー㉑
説教 下田尾治郎 宗教部長「私の目にあなたは遙高く、貴く」
講話 齊藤 新発田市健康推進課、坂井 新発田市健康推進課「守りたい しばたのいのち」
- 19 チャペル・アッセンブリ・アワー㉒
説教 和田献太郎 キリスト教教育主事「いいとこ取りから、お陰様へ」
講話 大竹孔三 Sounding Joy JAPAN 代表「命を輝かせる音楽療法」
- 20 学校推薦型選抜（1期）試験日
- 24 教授会
- 25 理事会
- 26 チャペル・アッセンブリ・アワー㉓
説教 榎本榮次 理事長「神はそれで良しとされた」
クリスマスツリー点灯式（写真⑥）
- 27 高校大学合同研修会



Gems in KEIWA

チャレンジ学生ファイル Vol.65

イラスト制作の夢を大学で実現

国際文化学科 4年

小掠 愉未



大学に入学して制作した作品と共に

松本淳先生のコメント

真面目で誠実であるが故にさまざまなことに悩みながらも、小掠さんは常に制作物を受け取る人を笑顔にすることに一生懸命取り組んできました。ゼミやさまざまなプロジェクトで、地域の歴史や文化を学び、それらをテーマとした作品制作や発表が、大学内にとまらず小掠さんの世界を広げてくれたのだと思います。敬和での学びを生かして、卒業後もき々と活躍してくれると期待しています。



私は在学中、大好きなイラストやデザインの活動をすることができました。2年生では法被デザインや仕掛け絵本作成、3年生の時は阿賀北ノベルジャムという小説を作って販売するイベントで、表紙と挿絵のデザインを担当しました。子どものころから絵を使った活動をしたいと思っていましたが、その夢が大学で叶うとは思ってもみませんでした。

制作活動をする中でアイデアが思いつかなかったり、締め切りに間に合わなそうな時は、部屋で泣いたりすることがありました。せっかく作るのならいいものを作りたいという気持ちと、自分が持っている力にギャップがあり、どうしたら納得いくものができるのか悩みました。一人で考えるのではなく、周りに相談することでひらめいたり、意見を取り入れながら前に進んできたように思います。

おかげさまで、人に恵まれて大学生活が彩り豊かになりました。これからも絵の勉強を続けて、自分らしさを表現できる人になりたいです。



敬和学園大学の最新情報

敬和学園大学

検索

www.keiwa-c.ac.jp

